

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

February
ISSUE



February, 2026
Volume 164

絵本から学ぶ無償の愛

本校の礼拝では、プロテスタント・会衆主義の考え方に基づき、教員が順に子どもたちにメッセージを届けています。

先日は2年1組担任の西村孝次教諭が、谷口智則さん作の絵本「かいじゅうのすむしま」*1を題材に、「無償の愛」についてメッセージを伝えました。

実は昨年12月に、1年生と2年生のユニットのゲストティーチャーとして、谷口智則さんを本校にお招きました。子どもたちは、大好きな絵本「100人のサンタクロース」の作者の方が来校してくださるとあって、大喜び。谷口さんは「どうやって物語を作っているのか。」「どんな風に絵を描いているのか。」興味津々でお話を伺いました。谷口さんは「お話を書くにはいくつかポイントがあります。」と、次の4つをご教示くださいました。①言葉の繰り返し②擬音語・擬態語の活用③主人公の特徴をうまく使う。④起承転結におちをつける。なるほど、様々な絵本を思い浮かべてみると、どの絵本にも共通する事項のようです。特に1年生は、物語を自分で作るユニットがあるので、今回教えていただいた内容をぜひ活用してほしいと思いました。

さて、この谷口さんですが、サンタクロースのお話の他にも様々な絵本を制作しておられます。谷口さんの絵本は、まずはフランスで出版されたとお聞きしました。谷口さんご自身がフランスで絵の勉強をされていたからというご縁もあるようです。その後日本でも出版され、人気を博しています。谷口さんのご出身地である四条畷市では、「100人のサンタクロース」プロジェクトが行われました*2。個性的にペイントされたサンタオブ

ジェが市内のあちこちに飾られ、昨年の12月に100体目が完成し、プロジェクトが完了したとのニュースが流されていました。

西村教諭は礼拝のメッセージで「かいじゅうのすむしま」を朗読した後、このように締めくくります。「みんな、何か良いことをしたら、ほめられたいよね。ほめられると嬉しいのは、子どもも大人も同じだと思います。でも、このかいじゅうは、ほめられたいからこの島を守ったのでしょうか。そうではないですよね。『自分がこの島を守りたいんだ。この島が大好きなんだ。』という気持ちで行動したんですよね。誰かが見ていても、人のために行動する。見返りを求めない行動をする。これを『無償の愛』といいます。」

このメッセージは、子どもだけでなく、大人の私の心にも響きました。人はともすると、自分の欲のために行動しがちです。しかし、本当に価値がある行動が何かを考えた時、見返りを求めない「無償の愛」に基づいた行動こそ、尊いように思うのです。国際社会が不穏な状況である今こそ、私たち一人一人が「自利」ではなく「利他」の心を持って行動する。そうすることで、世界は少し住みやすい場所になると思うのです。

「かいじゅうのすむしま」は本校図書館でも所蔵しております。お子様と一緒に是非読んでいただきたい1冊です。谷口さんの描かれた絵が図書館の入り口で皆様をお迎えしていますので、お時間がありましたらお立ち寄りください。

参考文献 :

1. 谷口智則(2024年)「かいじゅうのすむしま」アリス館
2. 四条畷市 <https://www.city.shijonawate.lg.jp/site/citypromotion/32061.html>

ロハス 亜紀



キリスト教教育

2月：愛 February : Love

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」

(ヨハネによる福音書 15章13節 聖書協会共同訳)

毎年1月下旬頃から所謂「バレンタイン商戦」が始まり、デパートやショッピングセンターでは特設のチョコレート売り場が賑わいます。昔は専ら若い女性客が目立つものでしたが、昨今は年齢や性別に関係なく、様々な層のチョコレート好きが集まり、品定めをする場になりました。バレンタイン・デーは「贈り手が女性で受け手が男性」という従来の日本のスタイルは既に古く、日頃から仲良しの友人や、特別に感謝を伝えたい相手にチョコを贈る習わしとして浸透してきたように思います。元々国によつてもこの日の祝い方は異なり、男性から女性へ花を贈る日だったり、恋人同士が綺麗なメッセージカードを交換する日だったりと、様々です。

バレンタイン・デーの起源には諸説あるそうですが、一番有名なのはカトリック教会に伝わる「ヴァレンティヌス Valentinus 司祭（3世紀前後の人）」の伝説でしょう。イタリア・ローマの教会の司祭であった彼は、皇帝クラウディウス2世が「士気の低下に繋がる。」として兵士たちの結婚を禁止していたにも拘らず、恋人たちの結婚式を執り行つたために捕えられて、処刑されました。2月14日のことでした。このキリスト教の司祭が殉教した日が、後に古来あつたローマの恋愛の女神や豊穣の祭りと結びつき、いつしか家族や恋人同士が「愛」を確かめ合う日になつたというものです。

現代のバレンタイン・デーは一種の年中行事となり、お楽しみ感が満載ですが（それはそれで平和ですが…）、その由来を考えると、愛とは命がけの行為を伴う極めて尊いもので、希少価値の高いものであることに気付かされます。

昨夏、数年ぶりで開かれたキリスト教主義学校教育同盟・西日本小学校教職員大会の開会礼拝では、会場校の先生が印象的なメッセージを語られました。「昨今は自分ファースト、自國ファーストという価値観が世界中を席巻している。しかしそうではない。他者ファーストの価値観を伝えていくことこそが、キリスト教主義学校の使命なのだ。」という内容だったと思います。ハッとさせられるものがありました。世間の風潮に自分自身が流されそうになった時、この言葉を繰り返し思い出していこうと決心しました。

Christian Education Committee チャップレン 石川眞弓



<お知らせ>

- ・2月の「おにぎり献金」は、2月10日（火）です。
- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

一年生のUnit6では「物語は注目を集め、メッセージを伝える。」をCentral Ideaに探究します。今Unitの探究では、物語がただ楽しい読み物であるということだけでなく、物語が読む人の心をひきつけ、その中で大切な思いや考えを伝える力をもっているということを理解することを目指します。子ども達は、物語の始まりや起こる出来事、登場人物の行動に注目しながら、物語がどのように読む人の心をひきつけているのかを学びます。それと同時に、物語の中に込められたメッセージにも目を向け、作者が何を伝えようとして物語を書いたのかを考えていきます。

一年生にとって、「考えを深く言葉で説明する」ことはまだ難しい段階です。そこでUnit6では、「体験→気づき→言語化」という流れを今まで以上に大切にしていきます。

まずは絵本の読み聞かせを通して物語の世界に没入することから始めます。絵本の読み聞かせを聞くだけでなく、描かれている絵をじっくりと観察したり、物語の途中で「このあと、どうなるだろう」と考えたりすることで、子ども達を物語の世界へと引き込みます。たくさんの絵本に触れる中で自分なりに絵本に対する問い合わせや予想、考えを持つようになります。「物語の構成（Form）」の理解が自然と深まっていくことでしょう。読み聞かせの後には、心が動いた場面や印象に残った登場人物についての話し合いも行います。ここでは正解を求めるのではなく、「おもしろかった」「好きだった」「びっくりした」といった子ども達の素直な意見を大切にしつつ、なぜそう思ったのかを言語化することを目指します。自分の考えや感じたことを話したり、友達の考え方や感じたことを聞いたりする中で、人によって感じ方や受け取り方が違うということへの気づきも促したいと思っています。

次の段階では、登場人物の行動や選択に目を向け、「なぜこの行動をしたのだろう」「自分だったらどうするだろう」と考える活動を行います。絵や場面を手がかりに話し合いを重ねることで子ども達は物語の出来事の背景にある登場人物の思いや考えを少しずつ理解していきます。さらに、理解が進むにつれて物語の中に込められた作者の思いや考えの気づきにもつながり、最終的には「人には優しくする」「思いやりの気持ちを持つ」「最後まであきらめない」といったメッセージを見つけることができ、「物語が伝えるもの（Perspective）」の探究につながります。

Summative Assessmentでは、Unitで探究した「物語の構成（Form）」や「物語が伝えるもの（Perspective）」をいかし、子ども達一人ひとりが自分の物語を書く活動に取り組みます。読者に伝えたいメッセージを考え、それを文章で表現することは簡単なことではありません。登場人物や場面、物語の始め方や終り方など、考えないといけないことはたくさんあります。また、今回のSummative AssessmentではUOIの評価だけではなく、にほんごの評価も行います。にほんごの授業ではこれまでひらがなやカタカナ、漢字の書き方を学習してきましたし、物語の読み解きをたくさん行ってきました。さらに冬学期の週末課題はこれまでの絵日記から日記に変え、文章で出来事を表現することや原稿用紙の使い方の練習を始めました。そんなとてつもなくチャレンジングな Summative Assessmentですが、作り方のヒントは昨年の12月に本校にゲストティーチャとしてお招きした谷口智則さんのお話にあると思います。谷口智則さんからは、絵本がどのようにして生まれるのか、どんな思いが込められているのか、についてお話ししていただき、実際に作品を生み出している絵本作家の言葉に触れることで、メッセージを人の心に届けるためにはどんな工夫が必要なのかのヒントが得られたはずです。子ども達が一年生の集大成とも言える今回のSummative AssessmentでCentral Ideaの理解にどこまで迫ることができるのか、今までの学びを生かしてどのような物語を書くのかが今から楽しみです。

Unitの最後には子ども達が書いた物語をお互いに読み合い、感じしたことや心に残ったことを伝え合う活動も行います。そこで子ども達には、物語が「読むもの」であると同時に、「思いや考えを伝えるもの」でもあることを実感して欲しいと思っています。





February Update: The Legacy of the Exhibition

Dear Parents,

Following the successful conclusion of the Grade 6 Exhibition on January 30th, our focus shifts toward Deep Reflection and preparing students for their next chapter beyond the Primary Years Programme.

1. Turning Experience into Wisdom: Reflection

In the PYP, learning continues after the event. Throughout February, students engage in the vital Reflection stage of the inquiry cycle, looking beyond their "product" to understand their growth as individuals.

Students are currently:

- Evaluating ATL Skills: Assessing how they managed time, collaborated, and communicated under pressure.
- Assessing Impact: Reflecting on the results of their Action and how they might remain advocates for their chosen issues in the future.

2. A Toolkit for the Future

The Exhibition provides students with a "portable toolkit" of skills essential for success in any secondary school environment:

- Self-Directed Learning: Having managed a multi-week independent inquiry, students possess the maturity to take ownership of their future studies.
- Critical Thinking: Using "Key Concepts" ensures students understand the "why" behind their learning, moving beyond simple memorization.
- The Learner Profile: Attributes like being Principled and Reflective serve as an internal compass for graduates entering a complex academic world.

How Parents Can Support

This is a month of "debriefing." We encourage you to think about the Exhibition with your child and ask: "Which part of the process are you most proud of, and how will that strength help you in your new school?"

We are proud of our Grade 6 students and look forward to celebrating their final months as they take their PYP legacy into the world.

Chris Elsdon PYP Coordinator

2月アップデート：エキシビションのレガシー

保護者の皆様

1月30日の第6学年エキシビションの成功を受け、現在は「深い振り返り」と、初等教育プログラム（PYP）の先にある次なる章への準備へと焦点を移しています。

1. 経験を知恵に変える：振り返り

PYPでは、イベントが終わっても学びは続きます。2月を通して、児童たちは探究サイクルの重要な「振り返り」の段階に取り組み、「成果物」の先にある個人としての成長を理解しようとしています。

児童たちは現在、以下に取り組んでいます：

- ATL*1 スキルの評価： プレッシャーの中での時間管理、協力、コミュニケーションをどう行ったかの評価(*1: Approaches to Learning の略)
- 影響の評価： 自身の「アクション」の結果を振り返り、今後どのように選択した課題を支援し続けられるかの検討

2. 未来へのツールキット

エキシビションは、中学校の環境で成功するために不可欠な「持ち運び可能なツールキット（スキル集）」を児童に提供します。

- 自己主導型の学習： 数週間にわたる自立した探究をマネジメントした経験により、今後の学習に主体的に取り組む力を備えています。
- 批判的思考： 「キーコンセプト」を活用することで、単なる暗記を超え、学びの背後にある「なぜ」を理解します。
- ラーナープロファイル： 「信念を持つ」や「振り返りができる」といった資質は、複雑な学問の世界へ進む卒業生にとっての心の羅針盤となります。

保護者の皆様のサポート

今月は「事後報告・共有（デブリーフィング）」の月です。お子様と一緒にエキシビションを振り返り、「プロセスのどの部分を最も誇りに思いますか？その強みは中学校でどのように役立つと思いますか？」と問い合わせてみてください。

私たちは第6学年の児童たちを誇りに思っており、彼らが PYP のレガシーを世界へと携えていく最後の数ヶ月を共に祝うことを楽しみにしています。

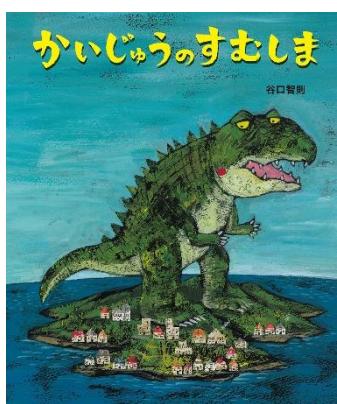
敬具

Chris Elsdon, PYP Coordinator

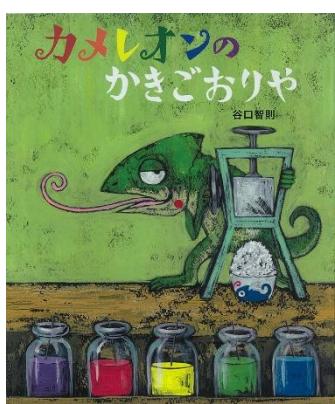
DIA LIBRARY かわいいおしゃせ!

谷口智則さんの絵本

ロハス先生から紹介がありました「かいじゅうのすむしま」の他にも谷口さんの絵本をたくさん所蔵しています。ぜひお手に取ってご覧ください。



アリス館



アリス館



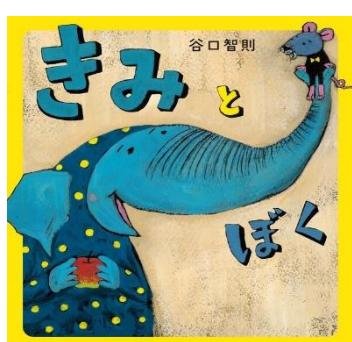
文渓堂



開くと蛇腹タイプのしきけ絵本になっています。



あかね書房



文渓堂

他にも「ゴリラのくつや」「100人のサンタクロース」「100人のサンタクロースの12かげつ」があります。



ライブペインティングで描かれた絵です。実際に見ていただくと発見がたくさんありますよ☆ きつねの表情がなんとも言えないです。

2月の主な行事・予定

2月2日 立石杯

1	日	立石杯 / Tateishi Cup
2	月	Unit6(week3) G2 校外学習 Excursion
3	火	
4	水	委員会活動
5	木	
6	金	性教育講演会
7	土	
8	日	
9	月	Unit6(week4)
10	火	
11	水	建国記念の日 / Japan's Foundation Day
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	Unit6(week5)
17	火	
18	水	クラブ活動
19	木	G5 国際中学校見学 / G5 visit to International Jr. High School
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	天皇誕生日 / Emperor's Birthday
24	火	Buffer week
25	水	委員会活動
26	木	
27	金	
28	土	

3月の主な行事・予定

3/7(土)	土曜参観・学期報告会
3/9(月)	代休
3/12(木)~3/13(金)	学期末カンファレンス (希望者のみ)、午前授業
3/16(月)	卒業式
3/19(木)	修了式
3/20(金)~4/6(月)	春季休暇